

野菜の需給・価格動向レポート(平成30年7月23日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

※・レポートの読み方については、注意書きを参照してください

種類	6月の価格情報			7月の価格情報		7月上旬の関東及び近畿ブロックの入荷量()内は、本年と過去3カ年平均値との比率	8月の主産地	生育及び価格の8月上旬までの見通し	「図の見方」 平均価格 現時点の価格水準 現時点の価格水準 平均価格(点線)は、レポート期間中に変動する場合があります。
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格 中旬	下旬	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	7月上旬				
葉茎菜類	キャベツ	67.20	76	87	77.90	79	・9.758t (94%)	群馬(79)	群馬産は、順調な生育であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 群馬産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均並みの価格は、引き続き平均並みで推移する見込み。
		81.66	86	95	88.91	84	・3.741t (99%)	群馬(70)	
	たまねぎ	85.93	64	67	102.67	79	・4.989t (122%)	北海道(48)、兵庫(27)、佐賀(14)	兵庫産は、収穫が終了して貯蔵物からの出荷となっており、引き続き平年を上回る出荷の見込み。佐賀産も、収穫が終了して貯蔵物からの出荷となっており、引き続き平年並みの出荷の見込み。後続産地である北海道産は、6月下旬以降の長雨・日照不足により生育は停滞したものの、初期生育が前進していたことから、平年並みの出荷の見込み。 佐賀産及び北海道産の出荷が平年並みと見込まれるものの、兵庫産の出荷が平年を上回る見込みであることや、流通在庫も多いことから、現在平均を下回っている価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。
		85.93	75	82	102.67	85	・1.625t (88%)	兵庫(66)、北海道(21)	
	ねぎ (関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ)	291.18	349	346	287.00	313	・1.281t (101%)	茨城(31)、青森(18)	茨城産は、順調な生育であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。後続産地である青森産は、6月以降の長雨・日照不足により生育が遅延していることから、平年を下回る出荷の見込み。 7月までの主産地であった千葉産の切り上がりが例年より早まったことで現在の価格は平均を上回っている。今後は茨城産の出荷が平年並みと見込まれるものの、青森産の出荷が平年を下回ると見込まれることから、引き続き平均を上回って推移する見込み。
		334.20	246	270	462.77	301	・191t (80%)	香川(37)、徳島(19)	
	はくさい	67.05	74	77	58.82	60	・3.586t (105%)	長野(95)	長野産は、順調な生育であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 長野産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均並みの価格は、引き続き平均並みで推移する見込み。
		74.06	77	75	62.79	60	・2.210t (98%)	長野(100)	
	ほうれんそう	376.10	445	505	583.95	511	・555t (99%)	群馬(29)、栃木(27)	群馬産及び栃木産は、最近の高温及び乾燥の影響により病害がでていることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。 関東産は高温、東北産は低温の影響で入荷が減少し、7月に入り日々値を上げ、現在平均を上回っている価格は、群馬産及び栃木産の出荷が平年を下回ると見込まれることから、引き続き平均を上回って推移する見込み。
		416.73	532	579	670.86	618	・219t (89%)	岐阜(74)	
	レタス(結球)	120.13	94	104	120.13	87	・6.521t (115%)	長野(89)	長野産は、天候に恵まれて順調な生育であることから、引き続き平年を上回る出荷の見込み。ただし、今後高温が続いた場合、生理障害により生育・出荷に影響が生じる可能性がある。 長野産の出荷が平年を上回ると見込まれることから、現在平均を下回っている価格は、サラダ需要があるものの、引き続き平均を下回って推移する見込み。
		125.61	95	107	125.61	89	・2.126t (114%)	長野(97)	
果菜類	きゅうり	199.33	245	302	232.28	284	・3.738t (115%)	福島(43)、岩手(24)	福島産は、順調な生育であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。岩手産は、6月上旬の低温や同月下旬以降の曇天により生育が遅延しており、最近の天候回復で生育は回復傾向にあることから、現在平均を上回っている価格は、徐々に値を下げているものの、引き続き平均を上回って推移する見込み。 福島産の出荷が平年並みと見込まれ、岩手産の出荷が平年を下回ると見込まれるものの生育は回復傾向にあることから、現在平均を上回っている価格は、徐々に値を下げているものの、引き続き平均を上回って推移する見込み。
		195.38	225	240	244.44	263	・1.040t (96%)	福島(36)、北海道(23)	
	トマト(大玉)	242.08	216	274	265.08	267	・5.173t (108%)	青森(20)、北海道(18)	青森産及び北海道産は、6月下旬以降の長雨・日照不足により生育及び着色が遅れていることから、現在平年並みの出荷となっているものの、今後は平年を下回る出荷の見込み。 青森産及び北海道産の出荷が平年を下回ると見込まれることから、現在平均並みの価格は、平均を上回って推移する見込み。
		239.96	216	258	298.46	274	・1.812t (114%)	岐阜(42)、北海道(30)	
	なす	311.92	376	384	242.04	330	・2.558t (115%)	群馬(35)、栃木(31)	群馬産は、6月の低温で生育が遅延していることに加え、一部に病虫害がでていることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。栃木産は、順調な生育であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 栃木産の出荷が平年並みと見込まれるものの、群馬産の出荷が平年を下回ると見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
		271.01	332	314	232.81	293	・887t (90%)	山梨(30)、徳島(20)	
ピーマン	290.48	328	410	290.48	467	・847t (88%)	岩手(46)、茨城(19)	岩手産は、6月の低温で花落ちしていることに加え、現在の高温及び干ばつの影響で病害がでていることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。茨城産も、現在の高温及び干ばつの影響で病害がでていることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。 岩手産及び茨城産の出荷が平年を下回ると見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。	
	307.99	258	389	307.99	432	・373t (97%)	大分(21)、青森(20)		
根菜類	だいこん	86.59	89	86	94.60	81	・2.418t (99%)	北海道(76)	北海道産は、6月下旬以降の長雨・日照不足の影響により生育不良となっていることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。 東北産が雨の影響で入荷が減ったことから7月中旬以降値を上げ、また、今後出荷の主体となる北海道産の出荷が平年を下回ると見込まれることから、引き続き平均を上回って推移する見込み。
		85.05	100	90	90.60	78	・1.469t (111%)	北海道(80)	
	にんじん	133.01	93	99	133.01	107	・2.533t (71%)	北海道(87)、青森(11)	北海道産及び青森産は、6月下旬以降の長雨・日照不足の影響により生育が遅延していることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。 順調な出荷を続けていた千葉産が、出荷終盤を迎え出荷量が徐々に減少していくことに伴って、7月に入り上昇している価格は現在平均並みとなっているが、北海道産及び青森産の出荷が平年を下回ると見込まれることから、今後は平均を上回って推移する見込み。
		132.62	74	77	132.62	112	・1.038t (76%)	北海道(96)、青森(3)	

注：1 平均価格は、過去6カ年(平成23～28年)の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)で、保証基準額の算定の基となる価格であり、農林水産省で公表している「野菜の生育状況及び価格見直し」における平年価格(平成25～29年)とは異なる。
2 旬別平均販売価格の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで平成29年実績である。
5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聞き取りをもとに機構が作成したものである。
6 関東・近畿ブロック以外の平均販売価格は、機構HPに掲載しているもので下記URLを参照。
URL : https://www.alic.go.jp/y-kofu/yagyomu02_000019.html
7 今般の少雨、高温により生育・出荷に影響が生じる可能性があります。

1 主要野菜の生産出荷状況

※・レポートの読み方については、注意書きを参照してください

種類	6月の価格情報				7月の価格情報		7月上旬の関東及び近畿ブロックの入荷量 ()内は、本年と過去3カ年平均値との比率	8月の主産地	生育及び価格の8月上旬までの見通し	「図の見方」 平均価格 → 現時点の価格水準 → 平均価格 現時点の価格水準 平均価格(点線)は、レポート期間中に変動する場合があります。
	(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック別平均販売価格		(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	7月上旬の関東及び近畿ブロック別平均販売価格	7月上旬の関東及び近畿ブロック別平均販売価格				
		中旬	下旬							
いも類	さといも	361.20	493	538	361.20	433	・30t (86%)	千葉(66)、宮崎(23)		千葉産は、順調な生育であることから、平年並みの出荷の見込み。宮崎産は、一部に病害がでていることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。 今後主産地が九州産から千葉産に移行し、千葉産の出荷が平年並みと見込まれるものの、引き続き宮崎産の出荷が平年を下回ると見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
		347.90	582 (167%)	519 (149%)	347.90	538 (155%)	・9t (65%)			
	ばれいしょ	145.31	67 (46%)	61 (42%)	117.36	69 (59%)	・1,639t (88%)	北海道(72)、茨城(10)		茨城産は、天候に恵まれて順調な生育であることから、引き続き平年を上回る出荷の見込み。後続産地である北海道産は、6月下旬以降の長雨・日照不足により生育の停滞があったものの、初期生育が前進していたことから、平年並みの出荷の見込み。 北海道産の出荷が平年並みと見込まれるものの、茨城産の出荷が平年を上回ると見込まれることに加え、流通在庫も多いことから、現在平均を下回っている価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。
152.23	75 (49%)	65 (43%)	117.36	77 (66%)	・340t (68%)	北海道(91)				

注：1 平均価格は、過去6カ年(平成23~28年)の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)で、保証基準額の算定の基となる価格であり、農林水産省で公表している「野菜の生育状況及び価格見通し」における平年価格(平成25~29年)とは異なる。
2 旬別平均販売価格の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで平成29年実績である。
5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴き取りをもとに機構が作成したものである。
6 関東・近畿ブロック以外の平均販売価格は、機構HPに掲載しているもので下記URLを参照。
URL: https://www.alic.go.jp/y-kofu/yagyomu02_000019.html
7 今般の少雨、高温により生育・出荷に影響が生じる可能性があります。

1 主要野菜の生産出荷状況(特定野菜)

種類	6月の価格情報				7月の価格情報		7月上旬の東京及び大阪市場の入荷量 ()内は、本年と過去3カ年平均値との比率	8月の主産地	生育及び価格の8月上旬までの見通し	「図の見方」 平均価格 → 現時点の価格水準 → 平均価格 現時点の価格水準 平均価格(点線)は、レポート期間中に変動する場合があります。
	(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	東京都・大阪市場の旬別価格		(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	7月上旬の東京及び大阪市場の旬別平均販売価格	7月上旬の東京及び大阪市場の旬別平均販売価格				
		中旬	下旬							
洋菜類	ブロッコリー	335.48	449	503	384.87	508	・489t (101%)	北海道(78)、長野(12)		北海道産は、一部の地域で雪解けが遅く定植が遅れたことに加え、6月下旬以降の長雨・日照不足により生育が遅延していることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。長野産は、順調な生育であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 長野産の出荷が平年並みと見込まれるものの、北海道産の出荷が平年を下回ると見込まれることや、市場での引き合いも強いことから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
		389.06	437 (112%)	497 (128%)	412.22	541 (131%)	・144t (99%)	北海道(60)、長野(16)		

注：1 平均価格は、過去5カ年(平成25~29年)の東京都及び大阪市中央卸売市場の価格。
2 旬別価格は、上段は東京都中央卸売市場、下段は大阪市中央卸売市場であり、単位は円/kgである。
3 旬別価格の赤字及び青の背景は、平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は平均価格を80%を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで平成29年実績である。
5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴き取りをもとに機構が作成したものである。
6 関東・近畿ブロック以外の平均販売価格は、機構HPに掲載しているもので下記URLを参照。
URL: https://www.alic.go.jp/y-kofu/yagyomu02_000019.html
7 今般の少雨、高温により生育・出荷に影響が生じる可能性があります。

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 斎藤、山田、長島 TEL03-3583-9793、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。
◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方は当機構のホームページのトップ画面、メルマガジンから登録してください。
★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://vegetan.alic.go.jp/vegetable_report.html に掲載しています。
※無断転載せず ・レポートに記載された情報をご利用になったことにより生じたいかなる損害に関して、当機構は一切の責任を負いません。